

中秋の名月

国立天文台のHPによれば2024年の「中秋の名月」は9月17日。「中秋の名月」は太陰太陽暦の8月15日の夜に見える月のことを指すようだ。ここ数年は「中秋の名月」は満月であったが、今年は翌18日が満月。

「名月必ずしも満月ならず」ということで次に「中秋の名月」が満月になるのは、2030年9月12日。

また別名では「芋名月」とも言い、秋の収穫を祝い満月の夜に「里芋」をお供えたことから「芋名月」と呼ばれるようになった。

十五夜の一月後に訪れる十三夜の月を「栗名月」と呼び、今年は10月15日。作物の収穫時期にあわせて名付けられるほど、古から月と農業は結びつきがあった。また十五夜と十三夜は一対をなし、二つの月を同じ場所から観るものとされている。

9月の満月は別名「ハーベストムーン」とも呼ばれ、この呼び方も農業と深く結びついている。ちなみに8月の満月を「スタージョンムーン」と呼び、北アメリカ五大湖周辺で「チョウザメ（スタージョン）」漁が最盛期を迎えることでその呼び名がついたという説がある。「チョウザメ」はたくさんの卵を付け、「繁栄」を意味するようだ。

「芋名月」の「里芋」も子芋を付け「繁栄」を表しており、古くから「満月」に「子孫繁栄」をお祈りしたことを物語る。「イモ」についての雑学であるが、通常「芋」はサトイモ（里芋）のことを指し、「薯」はヤマノイモ（ジネンジョ・自然薯）、「藷」は「甘藷」サツマイモを指す。

「里芋」はイモ類の中では低カロリーでカリウムを多く含み、ナトリウムの排出を促す作用がある。また水溶性食物繊維「ムチン」と「ガラクトタン」を含み、独特のヌメリを醸し出し、胃腸の機能を高め、血糖値やコレステロール値の上昇を抑制する効果もある優等生の健康野菜である。

「里芋」は乾燥と寒さに弱く、冷蔵庫に保存するのではなく新聞紙に包み冷暗所に保存するのが良いとされている。

「サトイモ」はほぼ全国で栽培されているが、千葉県、宮崎県、鹿児島県での栽培・出荷が多く、静岡県では主に料亭で使われる「エビイモ」栽培も有名だ。昨今は「サツマイモ」ブームで影が薄い「里芋」であるが、「中秋の名月」の主役であり、その食感や旨みを味わうのも如何でしょうか？

近年の自然は人間だけでなく、作物にも厳しい自然環境になってきた。昨年の水稻の不作・品質悪化により米不足となり全国のスーパーマーケットやお米屋さんの棚からお米が消えたとの報道がされている。今年も遅い梅雨入りとともに大雨被害が各地で発生し、農産物の収穫が心配される。「中秋の名月」に「里芋」をお供えし、自然に感謝し、災害のない1年をお祈りしたい。



～甲子園球場100年の歩み～

今夏も白熱した攻防戦が繰り広げられ、高校球児たちの伝う汗と涙とともに幕を閉じた全国高校野球選手権大会。昨年は阪神タイガース、38年振りの“あれ”に湧いたプロ野球。数々のドラマが生まれてきた“野球の聖地”と称される「阪神甲子園球場」は今年、開場100周年を迎えた。今回はその100年の歴史を少しばかり紐解こうと思う。

1924(大正13)年8月、兵庫県武庫郡鳴尾市(現在の西宮市)に開場。この年は甲子(きのえね)の年で、暦の干支を構成する十干と十二支それぞれの最初である「甲(きのえ)」と「子(ね)」が合わさる縁起の良い年であることから「甲子園大運動場」と名付けられた。開場日の8月1日には関係者1,000人を招いた竣工式と、阪神間の小学校から2,500人の児童が集まり「阪神間学童体育大会」が開催された。現在も毎年11月に西宮市立の小学校6年生、中学校全学年の児童・生徒たちが一堂に会し「西宮市立小学校連合体育大会」「西宮市中学校連合体育大会」が開催されている。参加する小中学生は各校リレー対決、各学年それぞれに器械体操や組体操を披露し、“甲子園の黒土”を踏めるという特権に大会以上の興奮を見せるのだ。

外壁面が緑に覆われている姿が印象的な甲子園球場。完成当時は打ちっ放しのコンクリートで殺風景だった壁面を飾る目的でツタを植栽、リニューアル工事に伴い一時伐採されたものの、高校野球連盟の全加盟校に贈呈されたツタのうち、生育状況の良いものが「ツタの里帰り」として再植され、順調に蔓を伸ばし、現在も壁面緑化としてヒートアイランド現象の緩和などにも貢献しながら球場を彩っている。また、球場の芝は天然芝だ。開設当時は土だけのグラウンドが2年後には外野一帯にシロツメクサの葉が生え、芝の代役をしていた。1982年からは芝の二毛作に成功し、一年中、緑の絨毯を保てるようになった。日頃から丹念な手入れが施された天然芝や壁面のツタ。甲子園球場は地球に優しく環境問題にも取り組んだ画期的な施設と言えるだろう。そして1995年、阪神淡路大震災の発生によりスタンドの一部に亀裂や崩落が生じた。しかし、基礎部分の検査で問題箇所が見られなかったことから、亀裂・崩落箇所のみの補修が行われ、近隣住民に配慮し中止も検討された中、予定通り、同年春の選抜高等学校野球大会が開催されたのだった。

緑を大切にその逞しさと歴史を刻んできた甲子園球場は、2007～2010年に亘るリニューアル工事を経て、現在に至っている。近年では著名なアーティストによるライブや、甲子園駅周辺の広場では各種イベントが開催され、球場周辺は一層の盛り上がりを見せている。また、今年8月1日には各界の著名人が出席し「夢の協演」と題した100周年記念式典が開催され、甲子園の歴史に残る一大イベントが大盛況の中、幕を閉じたのだった。まだまだ紹介したいところだが、長くなるのでこの辺りで終わりにしたいと思う。もっと甲子園球場の歴史をお知りになりたい方は、球場南側にある「甲子園歴史館」に足を運んでみてはいかがだろうか。スタジアムツアーも行われているので球場の歴史をより深く知ることができるはずだ。

日本中の人々に愛される「阪神甲子園球場」。今後も更なる歩み続け、また新たなドラマを生み出していくのだろう。(大阪支店)



一時に比べたら朝晩が少し涼しくなってきました。昼間はまだまだ暑さが続くようなので気温差で体調崩さないよう気を付けたいですね。

編集事務局：田口、山内

電話：03-5275-5511／E-mail：macjournal@mcagri.co.jp

URL <http://www.mcagri.jp>